

比較経営史特講 I

選択 2単位

大野 貴司

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、アメリカ・イギリスを中心とした欧米経営史をその考察対象とする。企業制度成立期から現代までの企業経営手法の発展と産業の発展に焦点を当て検討することにより、企業経営を歴史的に捉えていく視点を養うことを目指す。

2. 授業の到達目標

- ・欧米の産業発展についてその経時的なプロセスを説明できるようになること。
- ・企業経営を歴史的な視点から捉えることができるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

- ・講義中の議論への貢献度合い 50%
- ・レジュメ(毎回提出) 50%

60点以上を合格とする。

ただし無断欠席、遅刻、取り組み態度の悪い者(許可なき時のスマホ閲覧、講義と関係のない内職等)は減点する。

4. 教科書・参考文献

教科書

受講者の興味・関心に応じて決定する。

参考文献

大河内暁夫 経営史講義 東京大学出版会

5. 準備学修の内容

テキストの輪読形式により講義を進めるので、事前にテキストの該当箇所を読み、問題点の整理をしておくこと。報告者はA4、2〜3枚で割り当てられた箇所の内容をまとめ、説明すること。

6. その他履修上の注意事項

積極的な学習姿勢が求められる。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション、比較経営史を学ぶ意義
- 【第2回】 近代企業の成立①(イギリス工場制度の成立と発展)
- 【第3回】 近代企業の成立②(産業革命期のイギリスの生産と流通システム)
- 【第4回】 近代企業の成立③(イギリスの産業衰退)
- 【第5回】 アメリカ的大企業の出現
- 【第6回】 アメリカ的大企業の技術革新と管理行動
- 【第7回】 アメリカ的大企業による独占的行動
- 【第8回】 アメリカ的大企業による多角化戦略
- 【第9回】 アメリカ的大企業による組織戦略(垂直統合と組織形態)
- 【第10回】 アメリカ的大企業によるM&Aの推進
- 【第11回】 アメリカ的大企業によるグローバル化の推進
- 【第12回】 組織的工場管理の展開①(テイラーシステム)
- 【第13回】 組織的工場管理の展開②(ホーソン実験)
- 【第14回】 組織的工場管理の展開③(フォードシステム)
- 【第15回】 マイケル・ポーターの国の競争優位